

相模原支部  
ハイキング

# 石垣と海、ミカン畑、満開の桜： 見どころ満載の 小田原・一夜城跡巡り



庄厳な石垣



相模湾の見える眺望



満開の桜を見ながら



早川港へ



集合写真



ちょうちん灯台の「ガンダムマンホール」



ガイドを務めた小沼副支部長

4月5日、相模原支部は、17名に支部会員やその家族、恒例の城跡巡りを実施。「小田原一夜城跡」をテーマに小沼副支部長などがガイドを務めた。

雨天中止も危惧されたが、当日は肌さわやかな薄曇りのハイキング日和となった。参加者はわずか80日ほどで建設されたとは思えない、幾重もの石垣を見学。加工を控えた自然石を使って積み上げる「野面積み」の石垣は、石工集団「穴太衆」の高い技術を想像させた。一同は天守跡に残る瓦や小田原城と相模湾を見下ろす眺望を楽しんだ後、一夜城・西曲輪跡で昼食を取り、早川港へ。みかん畑の旧道を下り、見下ろす海を背景に満開の桜を満喫した。早川港の小田原ちょうちん灯台を経て、小田原駅にバスで向かう道中、小田原城の枳形門や土塁跡などもチェック。小沼副支部長の綿密な計画に基づき、見学ポイントを制覇した。小田原駅では、ミナカ小田原14階の展望足湯庭園に上り、小田原城とその西方にそびえる石垣山の位置関係を再度確認して解散した。

終了後には、有志12名が参加して地魚が売りの「小田原産朝これ地魚湘南大衆横丁」で懇親会を開催。充実の会員交流が行われた。

【ハイキングコース (約3.5km。一部省略)】  
小田原駅JR改札口正面観光案内所前 (集合：10時45分) ~小田原宿観光回遊バス「うめまる号」乗車~一夜城歴史公園バス停着~小田原ガイド協会の案内あり(約1時間)「史跡石垣山」石碑前で集合写真~西曲輪跡(昼食)~桜と海・みかん畑の下り坂のハイキング~小田原ちょうちん灯台~小田原漁港バス停で乗車~ミナカ小田原バス停着~ミナカ小田原14Fスカイデッキ (解散：14時45分頃)

## 6月1日付「CAD/CAMブリッジ用」材料が 特定保険医療材料に収載

5月13日に中医協総会が開催され、「KZR-CADファイバーブロック シンポー」(YAMAKIN株式会社)がCAD/CAMブリッジ用材料として保険収載されることが決定された。6月1日より保険請求できるようになる。現時点で判明している内容については下記をご参照いただきたい。詳細な通知はまだ発出されていないため、判明次第、改めて保険医新聞に掲載する。

### CAD/CAMブリッジ

・保険適用材料…「KZR-CADファイバーブロック シンポー」(YAMAKIN株式会社)

### 点数

- CAD/CAMブリッジ ○技術料：3,000点 (1装置につき)
  - ※「高強度硬質レジンブリッジ」の点数を準用
- 材料料 ※正式な数字は後日通知で判明予定。材料料は1,170点になると思われる
- 補綴時診断料 (1装置につき) 90点
- 歯冠形成 (1歯につき)
  - 生活歯歯冠形成 306点+490点
  - 失活歯歯冠形成 166点+470点
- ブリッジ支台歯形成加算 (1歯につき) +20点
- 印象採得 (1装置につき) 282点
- 咬合採得 (1装置につき) 76点
- 装着料 (1装置につき) 150点+110点
  - ※装着時、内面処理加算1 (110点) が算定可能

### 適用

④⑤⑥ または ⑤⑥⑦

### 解説

CAD/CAMブリッジとは、CAD/CAMブリッジ用材料との互換性が制限されない歯科用CAD/CAM装置を用いて、作業模型で間接法により製作されており、第二小臼歯または第一大臼歯の1歯中間欠損部に対するポンティックを含む3歯ブリッジを指す。

### 製作できる歯科医療機関

以下①②③いずれにも該当する歯科医療機関でCAD/CAMブリッジを製作することが可能となる。なお、現時点で施設基準届出の有無については明確になっていないが、後日通知で明らかになる予定。

- ① 歯科補綴治療に係る専門の知識及び3年以上の経験を有する歯科医師が1名以上配置されていること。
- ② 保険医療機関内に歯科用CAD/CAM装置が設置されている場合は、歯科技工士を配置していること。
- ③ 保険医療機関内に歯科用CAD/CAM装置が設置されていない場合は、当該装置を設置している歯科技工所との連携が図られていること。



医科学から  
読み解く  
西洋画家の物語  
~第五回~

## フィンセント・ファン・ゴッホの 生きづらさと病

川崎市川崎区 谷本 哲也



フィンセント・ファン・ゴッホ『灰色のフェルト帽の自画像』1887年、ファン・ゴッホ美術館 (事務局撮影)

研究により示唆された自閉スペクトラム症とカタトニアの重複。耳切り事件の医学的解釈と、神経発達障害が生んだ独創的な色彩表現の秘密とは一 (毎月一回連載)。

フィンセント・ファン・ゴッホ (1853-1890) は、世界で最も知られる画家の一人だ。それと同様に、最も謎に満ちた精神状態の持ち主でもある。耳を切り、幻覚に悩まされ、37歳で命を絶った彼の生涯は、古今の精神科医たちを惹きつけてやまない。

近年の研究では、ファン・ゴッホの精神的苦悩の出发点として、自閉スペクトラム症 (ASD) が注目されている。特に、知的障害やSDの特徴が随所にみられる。幼少期には虫の標本収集に没頭し、青年期にはベルギー南部の炭鉱地帯で、貧しい労働者に奉仕するプロテスタントの伝道師として宗教への熱狂に走り、画家としては異常な集中力で短期間に数百点の作品を描き上げた。彼の手紙には、感情の抑制困難や一方的な会話、周囲との人間関係のもつれが繰り返し記録されている。さらに注目すべきは、晩年にみられた一連のカタトニア的状態だ。耳切り事件に始まり、無言状態、興奮と混乱の繰り返し、奇妙な姿勢保持、自傷行為。これらはすべて、現代の診断基準でいうカタトニアに該当する。とりわけASDとカタトニアは10%以上の症例で併存が確認されており、ファン・ゴッホの場合も芸術と狂気は切っても切れないとされるが、その間には脆くも確かな発達障害の影が潜む。ファン・ゴッホの絵に宿る色彩と筆致の激しさは、まさに彼の神経の輪郭を映し出したものだったのかも知れない。私たちは今なお、謎に満ちた画家の内なる声に耳を傾け続けている。

言語発達の遅れを伴わないASDは成人期まで見逃されやすく、後年になつてうつや躁状態、あるいはカタトニア (緊張病) といった症状として現れることがある。DSM5TRでは、ASDとカタトニアとの関連性が明確に示されており、その重なりは診断を二層困難にしている。ファン・ゴッホの生い立ちを辿れば、孤独や社会的な不器用さ、特定対象への極端なこだわりといったASDの特徴が随所にみられる。幼少期には虫の標本収集に没頭し、青年期にはベルギー南部の炭鉱地帯で、貧しい労働者に奉仕するプロテスタントの伝道師として宗教への熱狂に走り、画家としては異常な集中力で短期間に数百点の作品を描き上げた。彼の手紙には、感情の抑制困難や一方的な会話、周囲との人間関係のもつれが繰り返し記録されている。さらに注目すべきは、晩年にみられた一連のカタトニア的状態だ。耳切り事件に始まり、無言状態、興奮と混乱の繰り返し、奇妙な姿勢保持、自傷行為。これらはすべて、現代の診断基準でいうカタトニアに該当する。とりわけASDとカタトニアは10%以上の症例で併存が確認されており、ファン・ゴッホの場合も芸術と狂気は切っても切れないとされるが、その間には脆くも確かな発達障害の影が潜む。ファン・ゴッホの絵に宿る色彩と筆致の激しさは、まさに彼の神経の輪郭を映し出したものだったのかも知れない。私たちは今なお、謎に満ちた画家の内なる声に耳を傾け続けている。